

黒海経済協力共同体におけるトルコの役割

南・西アジア課程 トルコ語学科 4 年

緑川真知子（8597061）

はじめに

トルコは共和国が成立してから、北大西洋条約機構（North Atlantic Treaty Organization）の一員になるなど西欧化を目指してきた。その最終段階として欧州連合（European Union）の正式加盟を望んでいるが、その可能性はかなり低いようである。トルコは冷戦時代、地理的にソヴィエト連邦や東欧の社会主義国家に対する最前線国家として、西側の資本主義諸国家を軍事的に防衛することに力を注いできた。そして冷戦後、西側に対するソヴィエト連邦の脅威の終結によって、西におけるトルコの地理戦略上の重要性は少なくなったように思われた。しかし、1991年に起きたソヴィエト連邦の解体によって、トルコの重要性は増してきた。バルカン、トランスコーカサス、中東における紛争は、その地域を安定させることができるというトルコの価値を強調する機会を与えた。独立したトルコ系民族国家及び東欧の旧社会主義諸国と経済的、政治的、文化的に良い関係を作ることが求められているのである。そこでトルコ政府はそれらの国々との密接な相互関係を促進しようと試みた。その中でも、トルコが主導的な役割を担っている「黒海経済協力共同体(Black Sea Economic Cooperation)」¹に注目し、BSECの概要と、それができたことによってどのような経済的变化を加盟国に与えたのか考察する。

第一章では、第二次世界大戦後からソヴィエト連邦崩壊までの歴史を紹介し、トルコが黒海地域の国々になぜ目を向けたのか、その背景について概説する。

¹ 以下「BSEC」と略す。

第二章では、BSEC 設立までの経緯、及び目的を概説する。

第三章では、トルコと BSEC の加盟国家との間の経済関係について考察する。BSEC を設立したことによって、互いの貿易額にどのような影響が出たのか検証する。資料として、トルコ統計局のホームページ (<http://www.die.gov.tr/>) 内の黒海経済協力共同体加盟国との貿易に関するページ (<http://www.die.gov.tr/BSEC/bsec.html>) を使用した。

BSEC の存在は日本ではまだあまり知られていない。この論文では、BSEC の紹介と共に、BSEC 設立によってトルコと加盟国の間の経済的、政治的関係がどのように変化していったのか解明していきたい。

第一章 歴史的背景

1923 年のトルコ共和国の建国以来、トルコは西欧を手本として近代化・世俗化を目指してきた。これを実現するために、対外的には「内に平和、外に平和」のスローガンを掲げ、善隣友好・全方位外交を展開してきた。²

第二次世界大戦後の 1947 年 3 月にトルーマン大統領は「トルーマン・ドクトリン」宣言を発表し、トルコ、ギリシアに対する支援を訴えた。この頃から東西冷戦が本格的に始まり、トルコは経済的、政治的、軍事的に西側陣営へ急激に傾斜していった。1947 年 6 月にはパリで、マーシャルプランについての会合が開かれた。ソヴィエト連邦と東欧 7 カ国はマーシャルプランに反対し、トルコを含む西欧 16 カ国が 1947 年 7 月に、パリで欧州経済協力委員会 (CEEC) を開催した。1948 年 4 月にはマーシャルプランの受入機構として、欧州経済協力機構 (Organization for European Economic Cooperation、60 年に経済協力開発機構 <Organization for Economic Cooperation and Development> と改称した) がトルコを含む西欧 16 カ国によって設立された。

1950 年 6 月に朝鮮戦争が勃発したときには、アメリカに次ぐ兵力を韓国に派兵した。この韓国派兵によって、アメリカはトルコの重要性を再認識し、積極的に軍事・経済援助に乗り出した。トルコ国内では、ソヴィエト連邦の脅威から自国を守るために、NATO の加盟を求める意見が強くあった。対ソ連包囲網体制の再編成の動きもあり、1952 年 2 月トルコは NATO 加盟を実現した。

1960 年 5 月トルコのインジルリッキ空軍基地を出発し、ソヴィエト連邦領空をスパイ飛行していたアメリカの U-2 型偵察機が、ソヴィエト連邦のウラル地方のスヴェルドロフスク付近で、ミサイルで撃墜される事件が起こった。この U-2 型偵察機によるソ連上空のスパイ飛行がトルコのインジルリッキ空軍基地を起点として行われていたことについて、トルコ当局は何も知らされてはおらず、トルコのアメリカに対する不信感を

²長場紘「変転するトルコの社会・政治情勢」『現代の中東』第 24 号、1998 年、44、45 ページ

起こさせるものとなった。この事件は、トルコ、アメリカ間の関係を変える契機となったもので、トルコとソヴィエト連邦との新しい局面を開く前触れとなるもだった。³

トルコは西欧化への第一歩として、ヨーロッパ共同体（European Community）への準加盟を 64 年 12 月に果たした。1995 年に正式加盟することが目標とされ、1987 年 4 月に正式加盟の申請書を EC に渡した。1996 年 1 月に欧州連合（EU、EC が母体となっている）の関税同盟に加入した。このことによって、トルコの EU への正式加盟の道が開かれたと思われたが、1997 年 12 月 12 日に衝撃的なことが起きた。EU 首脳会議がルクセンブルグで開かれ、ポーランド、ハンガリー、チェコ、スロベニア、エストニア、キプロスの 6 カ国を対象として新規加盟に向けての交渉を 98 年春に開始することが決定した。さらに、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ブルガリア、スロバキアの 5 カ国は、正式交渉を前提としての話し合いが進められることになった。当時のユルマズ（Yılmaz）首相は「EU 首脳会議で設置が決まった欧州協議会へは参加しない。今後 EU との政治対話は見合わせる」と怒りをあらわにした。⁴1999 年にやっとトルコは EU 加盟の候補国となったが、高インフレなどの経済問題、クルド人の人権問題などがあるために正式加盟は難しいだろう。

一方、ソヴィエト連邦の当時の大統領ゴルバチョフが 1980 年代半ばに開始した「ペレストロイカ」と「グラスノスチ」が、東欧圏の脱ソ連圏と脱社会主義化、91 年に入ってから進行したバルト 3 国の独立、ユーゴスラビアの解体、同年 8 月におけるソ連邦自体の解体のきっかけとなったと言える。91 年 12 月には、ウクライナで国民投票が行われ、完全独立を望む声が圧倒的だったことが、独立国家共同体（Commonwealth of Independent States）結成のきっかけとなった。完全な主権を持った国家が緩やかに連合するというものである。「社会主義」に代わって、「民族主義」「市場経済」が導入され始めた。

そしてソヴィエト連邦解体によって、バルト 3 国やウクライナなどは EU への接近を試み、ロシアは EU だけでなく、日本などの東アジアにも近づこうとしている。また、中央アジア諸共和国やアゼルバイジャン共和国は隣接するトルコ、イラン、パキスタン、アラブ諸国などの中東諸国との関係強化を模索している。

新たに独立した旧ソ連邦の国家の中で、中央アジアのカザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、キルギスタン、タジキスタン、南コーカサス地方のアゼルバイジャン共和国の 6 共和国が、ムスリムが多数を占めるイスラーム国であった。これらの国とトルコとを結ぶ条件に、トルコ系というエスニシティ、文化、言語が関わってくるのは否定できない。このことはトルコが今後の経済関係を進めていく中で有利に働くだろ

³ 松谷浩尚、『現代トルコの政治と外交』劉草書房、1987 年、206～211 ページ

⁴ 長場紘「前掲論文」45 ページ

う。中央計画経済から市場経済への移行途中のこれらの国では、トルコが経たエタティズムから市場メカニズム経済への移行は見習うべきモデルであると思われる。そのためトルコに注目が集まっている。実際キルギスタンはトルコに、自国の天然資源に対する投資を呼びかけた。

第二章 黒海経済協力共同体の成立過程

(1) 設立過程

BSEC は 1989 年にトルコが提唱したもので、ロシア、ウクライナ、グルジア、アゼルバイジャン、アルメニア、トルコ、ブルガリア、ルーマニア、モルドバの 9 カ国が、92 年 2 月初旬にイスタンブルで会議を開き、設立協定に仮調印したものである。⁵その後 92 年 12 月にアンカラでトルコは、BSEC 計画の実現に向けての話し合いのために、これらの国の代表と予備会議を開いた。結局、BSEC は前述の 9 カ国とアルバニア、ギリシアの 2 カ国を含めた 11 の設立国が参加して、1992 年 6 月 25 日にイスタンブルで正式に設立された。

黒海経済協力におけるサミット宣言⁶ イスタンブル、1992 年 6 月 25 日
アルバニア、アルメニア、アゼルバイジャン、ブルガリア、グルジア、ギリシア、モルドバ、ルーマニア、ロシア、トルコ、ウクライナの国、または政府の首脳；

1. ヨーロッパにおける深く、早い変化、そしてヘルシンキ最終条例、それに続くヨーロッパ安全協力会議⁷（Conference on Security and Cooperation in Europe）文書、特に新ヨーロッパのためのパリ憲章における原則を基本に、大陸の人々の平和と安全の新時代を作るという決心を考慮に入れること。
2. 繁栄し、統合しているヨーロッパは、人権と基本的自由に基づく民主主義、経済的自由、社会正義を通じた繁栄、我々全ての国への平等な安全保障などの共通価値の上で発展していくことを認めること。
3. 加盟国の可能性と、地理的近接性、改革のプロセス、構造調整から生じる相互に有利な経済協力を増やす機会を考慮すること。
4. 人々の福利のために黒海の問題の重要性に意識し、経済発展の環境維持を保証することが重要だということを理解すること。
5. CSCE 過程への貢献として経済協力を発展させ、世界経済への加盟国のより高い統合のプロセスの達成と同様に、ヨーロッパ規模の経済地域を設立する意思を確認すること。

⁵ 清水学「ソ連解体と中東世界」『現代の中東』第 12 号、1992 年、80,82,85、89、96 ページ

⁶ 以下はトルコ外務省ホームページ（<http://www.mfa.gov.tr/>）から引用した。

⁷ 以下 CSCE と略す。

6. 他の利害のある国々同様に、加盟国間での相互的な、そして多国的なより進んだ発展と多様化を達成し、経済的、科学的、社会的発展を助長し、自由企業を奨励するという共通目標を共有すること。
7. 経済協力は、協定に反さず、地域的イニシアチブ内の協力、EC と同様の国際組織を含む第三者と加盟国との関係促進を妨げずに発展することを認めること。
8. 黒海は平和、安定、繁栄の海となること、そして善隣友好関係を促進する努力をすることを目指すこと。
9. 加盟国間の経済協力は、国際法で一般的に承認されている原則と同様に、ヘルシンキ最終条例の原則と、それに続く CSCE 文書における決定を基礎として発展することを言明すること。
10. 経済協力が次第に促進され、その一方で、このプロセスで優先事項を決めるときに、加盟国の明確な経済状態、利益、関心、そして特に市場経済への移行途中の国々の問題を考慮に入れることを承認すること。
11. 加盟国の全経済協力では、この文書の条項を認める他の利害のある国の参加が可能であることを確約すること。共通利益、個々の国々、経済と財政上の機関、企業、会社のプロジェクトに関しては、地域的、国際的経済と財政上の機関と同様に理解すること。
12. 下で具体的に挙げたように、様々な活動分野を含み、包括的な多国的、相互的黒海経済協力を発展させることを決めること。
13. 貿易と産業協力を含む経済、科学と技術、そして環境の分野で発展し、増える協力の全ての可能性と機会を最善の状態を利用する決定、そして加盟国が今後このプロセスにおいて適任の組織、企業、会社、共通利益プロジェクト、特に下記の分野で認定し、発展し、実行することによって具体的なステップを踏むことを宣言することを断言すること。
 - ・ 構造基盤を含む輸送と伝達
 - ・ 情報
 - ・ 統計を含む経済為替と商業情報
 - ・ 製品の規格化と保証
 - ・ エネルギー
 - ・ 鉱物資源の採掘と加工
 - ・ 観光事業
 - ・ 農業と農産業
 - ・ 獣医学と衛生保護
 - ・ 医療と薬学
 - ・ 科学とテクノロジー

1. 協力の促進のために、加盟国はビジネス環境を改善し、直接関わる企業や会社の個人的な、また集合的なイニシアチブを刺激するために行動するだろう。主に、下記に載せたことをすることによって。

- ・ 相互交渉を通して敏速な参加、それぞれの領土におけるビジネスマンの滞在と自由移動を容易にすること、そして企業や会社の間直接的関係を奨励すること。
- ・ 小、中企業を支援すること。
- ・ 商品とサービスの相互貿易の拡大に貢献すること、第三者に対する責務に反しないように、全種類の障害のさらなる減少または前進的な削除を行なう努力を続けることによって、状態をよい方向へ発展させることを保証すること。
- ・ 近い将来、特に二重課税の回避、投資の促進と保護における協定が締結され、効果が出ることによって、投資、資本流入、産業協力の異なる形のために適切な条件が保証されること。
- ・ 国家規則と慣習にしたがって、企業や会社チャンスを与えるために加盟国で組織された国際入札レートにおける情報交換を奨励すること。
- ・ 自由経済区域での協力を奨励すること。

1. 加盟国は環境保護、特に黒海環境の保護と改善、そしてバイオ生産潜在性の保護、開発、発展のための共同プロジェクトを促進することによって、適切なステップを踏むだろう。

2. 加盟国は政治的、非政治的レベルでの適切な信用と財政協定の締結を考慮、または奨励し、国際機関や、第三者を通して、相互の経済的、商業的協力を拡大し、黒海地域で共通利益の明確なプロジェクトを実行する目的で、基金を流通させる努力をするだろう。これに関して、「黒海外国貿易投資銀行」設立の可能性や方法を考えている。

3. 加盟国の外務大臣による会談は、少なくとも年に一回、進行過程を批評し、新しい目標を定めるために交代で定期的に開かれるだろう。共通理解によって、特別に専門家が集まって常任労働グループが、異なった分野での協力に関する必要な協定を提案するために設置されるだろう。加盟国は、この協力の舞台で構造的柔軟性を保証することが必要であると考えている。経済界の代表は、実用的経験から利益を得るためにこのプロセスに招かれるべきである。

4. 加盟国の承認を得て、この文書の条項を順守している国々は、協力の全プロセスに参加できる。第三者の組織、企業、会社はまた、共通利益のプロジェクトにおける利益を指摘し、協定の場合には、それを実行する可能性がある。地域的、国際的な経済、商業機構はまた、これらのプロジェクトを実行することに貢献するだろう。

これを読むと、BSEC の狙いは、黒海地域が多元的民主主義や社会正義、人権、法の支配、基本的自由、自由市場、経済繁栄のような共通価値を基礎として、その地域を安定させ、繁栄させることであると分かる。劇的な変化の時代に、BSEC の設立は経済復活と繁栄の基礎としての市場経済を発展させるために急速な改革を主導することになるだろう。

(2) BSEC の組織⁸

その後外務省会議 (the Meeting of the Ministers of Foreign Affairs) ⁹が意思決定をするために設立された。1994 年 3 月 10 日、MMFA の決定によってイスタンブールに本部を置く常任国際事務局 (Permanent International Secretariat of the BSEC) が設立された。この事務局の主な役割は草稿の準備や、加盟国家から渡された文書の配布、BSEC 会議のための運営サポートの準備、BSEC の文書保管所と文書の維持である。そして事前会議の決定、補助団体の勧告、加盟国の提案を完全に一致させ、MMFA 用の草稿議事を準備し、伝達する責任を担っている。1993 年には、アルバニア、アルメニア、アゼルバイジャン、グルジア、モルドバ、ルーマニア、ロシア、トルコ、ウクライナの代表が BSEC 会議 (Parliamentary Assembly of the BSEC) ¹⁰を設立することに決めた。その目的は、BSEC 首脳会議宣言の原則を理解するための法律上の支援を含め、加盟国の間に適切な関係を作ることである。そして黒海地域に多元的民主主義構造と政治的安定を強化することも、その目標に含まれている。PABSEC は、加盟国の間にある経済的、商業的、社会的、文化的、政治的協力への法的根拠を与える共通した歴史的価値を利用して、BSEC の理想や目標の理解や採択を確保するように努めている。PABSEC には 3 つの委員会がある。経済、商業、科学技術、環境委員会 (the Economic, Commercial, Technological and Environmental Affairs Committee)、法務、政務委員会 (the Legal and Political Affairs Committee)、文化、教育、社会委員会 (the Cultural, Educational and Social Affairs Committee) である。定期的に、それらは適切な問題を議論し、総会にレポートを提出する。常任委員会 (the Standing Committee) は、3 つの委員会の議長と国家の代表で成り立っている。PABSEC の中には、事務局長が率いる国際事務局 (the International Secretariat) もある。

1992 年 12 月には、BSEC 内に初めて立会人を受け入れた BSEC 会議 (the BSEC Council) を設立した。議長の任期は 6 ヶ月ごとにローテーションしている。この会議は民間投資か公的投資か識別するために現在活動している。黒海貿易開発銀行 (the

⁸ 以下の文はトルコ外務省ホームページ (<http://www.mfa.gov.tr/>) から引用した。

⁹ 以下「MMFA」と略す。

¹⁰ 以下「PABSEC」と略す。

Black Sea Trade and Development Bank)¹¹はギリシアのテッサロニキ (Thessaloniki) に本部を置いている。BSEC 地域に外国資本や投資資源の移動を促進する目的で、地域内外の貿易に融資している。BSTDB の資本には、特別引き出し権¹²が使われることがすでに承認されている。

(3) 設立後の展開

加盟国の領土には、天然ガスや石油、石炭、木材、鉱石などの豊かな天然資源が眠っている。そのため、黒海は今後ますます輸送や取引の手段として重要になるだろう。しかしこの地域での近代的輸送基盤が不足しているため、乗客、商品、サービスの流入を加速するようなパイプライン、鉄道、高速、港などの急速な建設が望まれている。

1990 年 12 月のアンカラ会議で、各国の代表は、人、商品、資本、サービスの自由移動を許可する提案を考慮した。1992 年 6 月の会議宣言では、自由貿易協定のことには言及されなかったが、貿易の障害の大幅な減少と、人ではなくビジネスマンだけの自由移動について言及された。加盟国の多くは、トルコの消費製品にとって潜在的に重要な市場である。多くの技術分野での政治的、非政治的協力を促進するという BSEC の狙いは、トルコ経済を強化することができるだろう。

トルコは地域を安定させる勢力としてのトルコの重要性を証明するために、BSEC の設立を望んだ。それはトルコの名声が上がリ、その結果として EU に正式加盟する可能性が高くなることを望んでいることをも表している。BSEC のメンバーであることは、EU のメンバーであることと二者択一という意味ではない。それどころか BSEC は、EU の活動を補完することができ、ますますヨーロッパを結合させることができると信じられているのである。このため、トルコはギリシアが BSEC へ参加することを拒否しなかったのである。この EU との直接的なつながりは、BSEC が EU のライバルになるつもりがないということへの明らかな証拠である。1992 年 6 月の BSEC における会議宣言では、経済協力は EC と同様の国際組織を含む、第三者と参加国家の間の関係を妨げないように発展すると言及した。

少なくとも一回、トルコは黒海地域の安全問題に BSEC をまきこもうと試みた。1994 年 5 月、トビリシ (Tbilisi) での第三回 PABSEC 会議で、ナゴルノ - カラバフ (Nagorno-Karabakh) の領土を巡ってのアルメニアとアゼルバイジャンの調停を BSEC に押し付けた。そして地域の問題を平和的に解決するための BSEC 協議委員会の設立を求めた。しかしロシアは BSEC が取り扱いに慎重を要する安全問題に直接関わることを認めず、共同安全システムを CIS に作ることを決めた。

¹¹ 以下「BSTDB」と略す。

¹² 人工国際通貨 (Special Drawing Rights) 国際通貨基金 (International Monetary Fund) が設定したもの。

BSEC のメンバーであるにも関わらず、トルコはギリシア、ロシア、アルメニアとの関係にいまだに多くの問題を抱えている。1995 年 5 月に、ギリシアは遅れて PABSEC の正式なメンバーになることを求めた。トルコはギリシアの入会許可を妨げようとしたが失敗した。トルコのラーシム・ザインオール (Rasim Zainoğlu) は、ギリシアがロシア、ブルガリア、ルーマニア、アルメニアと共謀して BSEC 内に反トルコグループを作することを非難し、PABSEC からのギリシアの追放を主張した。トルコ外務省のスポークスマンは、これはトルコを取り囲み、その地域の平和と安定を脅かすことを狙いとした、ギリシアの政策のひとつの例であると公的に宣言した。これらの問題や、特にエーゲ海やキプロスと関係あるものを巡るギリシアとトルコの間の継続的な摩擦は、トルコが EU に正式加盟することの妨げとなっている。¹³

第三章 トルコと BSEC 諸国との経済統計

表 1 は BSEC 加盟国の 1992 年から 94 年までを平均した経済指標を表している。表 1 を見ると、一人当たり GDP の割合は 8,732US ドルとギリシアが最も高く、958US ドルのアルバニアが最も低い

表 1 人口と一人当たり GDP の統計¹⁴

	人口('000)	一人当たりの GDP(USドル)
ギリシア	13,300	8732.00
ロシア	148,470	5218.00
トルコ	59,830	4752.00
ブルガリア	8,480	3973.00
ウクライナ	52,080	3731.00
モルドバ	4,350	3412.00
ルーマニア	22,760	2791.00
アゼルバイジャン	7,330	2446.00
アルメニア	3,730	2147.00
グルジア	5,380	1578.00
アルバニア	3,360	958.00

¹³ Gareth Winrow, "Turkey's Evolving Role in the Post-Soviet World", in Libby Rittenberg(ed.), *The Political Economy of Turkey in the Post-Soviet Era: Going West and Looking East?*, Westport, Connecticut, London, 1998.

¹⁴ Serdar Sayan; Osman Zaim, "The Black Sea Economic Cooperation Project" in Libby Rittenberg(ed.), op.cit.

トルコの貿易構造について少し触れる。トルコは OECD 加盟国で、貿易の約 3 分の 2 は OECD 諸国との間で行われている。しかし、70 年代から市場の多角化が進み、アラブ諸国、イラン、イラクなどのシェアも拡大している。

輸出に占める農産物の比重は、85 年には 21・6%だったが、92 年には 15・4%に低下した。一方石油製品、農産加工品を除く製造工業品は同じ期間に 62・5%から 72・8%に増加している。繊維製品、鉄鋼製品などの輸出増加がこれに大きく貢献している。輸入は 84 年に大幅な自由化が実施され、その後の自由化によって輸入割当などの制限は事実上撤廃された。その結果、輸入は年々拡大している。国内の工業化の進展と同時に、機械類などの資本財輸入を始め、これまで輸入されなかったぜいたく品の消費物資も輸入が行なわれている。

96 年 1 月 EU 関税同盟加盟後は、輸出が前年と比べて 1 桁の増加にとどまったのに対し、輸入は 2 桁以上の増加と大きく伸びた。このうち、EU に対する輸入は輸入総額の 50%以上を占めるほどに拡大した。特に、自動車は関税同盟加盟後、EU からの輸入が急増している。一方、EU に対する輸出は、期待されていた繊維製品の輸出が伸び悩み、停滞している。トルコ最大の輸出産業である繊維産業は EU 関税同盟に加盟したことにより、対 EU 輸出の数量規制撤廃というメリットを受けた反面、トルコが第三国から輸入する原材料に対し、EU の輸入数量規制が適用され、コスト上昇につながった。しかも輸出加工用原材料の輸入関税免除や輸出向け貨物の輸送費補助などの対 EU 輸出奨励政策が関税同盟加盟に伴って廃止されたなどのデメリットも生じた。¹⁵

表 2 はトルコと BSEC、EU、OECD 諸国との輸出入額を表している。BSEC 諸国への輸出は BSEC が設立された 92 年から 95 年までに 2.42%、EC へは 1.46%、OECD へは 1.41%増えている。輸入に関しては、BSEC からは 2.29%、EU からは 1.68%。OECD からは 1.53%増えている。他の 2 つと比べると、BSEC 諸国との貿易額は金銭的にはかなり少ないが、着々と増えている。

表 2 組織別輸出入¹⁶

(単位 US ドル)

	1992		1993	
	輸出	輸入	輸出	輸入
BSEC	1,003,326,258	1,743,791,987	1,041,006,679	2,766,023,124
EU	7,600,458,917	10,048,960,958	7,287,231,684	12,948,873,019
OECD	9,357,161,360	15,438,151,778	9,076,334,477	19,999,301,943

¹⁵財団法人世界経済情報サービス（ワイス）「ARC レポート 1999 トルコ経済・貿易の動向と見通し」

¹⁶トルコ統計局 (<http://www.die.gov.tr/BSEC/bsec.html>)

	1994		1995	
	輸出	輸入	輸出	輸入
BSEC	1,636,539,363	2,166,461,870	2,425,529,476	3,998,112,874
EU	8,269,185,991	10,278,648,545	11,078,005,103	16,860,583,669
OECD	10,757,961,926	15,334,136,529	13,223,119,144	23,595,453,899

BSEC 加盟国の産業は、石油や農業を中心として発展しているところが多い。アルバニアの産業は大部分が農業で占められている。しかし軽工業やエネルギー産業にも力を入れ始めている。ブルガリアとルーマニアは共に、共産主義政権の下で農業を犠牲にして産業経済を発展させてきた。特に燃料、冶金、機械などの重工業が発展している。アルメニアは幅広い消費製品が輸出品の中心である。アゼルバイジャンは石油資源に恵まれており、農業産業と同様に鉄や非鉄技術、石油技術、電気工学、化学製品、石油化学が盛んである。グルジアの主な産業は農業製品と工学、航空機製造業、自動車製造業、軽産業、食品産業、化学産業、コンピューターなどである。モルドバの主な産業は農業産業とそれに付随する家庭器具、高度技術電化製品である。ロシアは豊富な資源に恵まれ、多様な産業を持っている。ウクライナは重工業、化学薬品産業、織物工業、燃料やエネルギーに関連のある産業が主で、特に石炭は重要な産業となっている。ギリシアでは農産物、加工食品、繊維製品が産業の中心である。¹⁷

表3と4はトルコとBSEC加盟国における貿易の流れを表している。比較するために、BSEC設立以前の数字も含まれている。これを見ると、トルコはいくつかのBSEC加盟国にとって、トルコにとっての加盟国より重要な貿易相手国となってきたのが分かる。輸出の割合を見ると、アルバニア、アゼルバイジャン、グルジアなどの国の総輸出におけるトルコへの輸出の割合は、トルコの総輸出におけるこれらの国への輸出の割合よりもかなり高い。輸入の場合は、アゼルバイジャンやグルジア、特にブルガリアやウクライナに輸出のときと同じようなことが言える。ロシアの場合は、輸出、輸入とも立場が逆になっている。しかしこれらの国と比べると、その割合の差は比較的小さい。

またこれらの表からBSEC設立後、トルコとBSEC加盟国の間の貿易が増えてきたことが分かる。特に輸出においては、ほとんど連続した増加が見られる。

表3 BSEC 諸国へのトルコの輸出¹⁸

	1990			1991			1992		
	トルコ輸出 ¹⁹	割合 ¹²⁰	割合 ²²¹	トルコ輸出	割合 ¹	割合 ²	トルコ輸出	割合 ¹	割合 ²

¹⁷ N. Bülent Gültekin; Ayşe Mumcu, “Black Sea Economic Cooperation” in Vojtech Mastny; R. Craig Nation (ed.), *Turkey Between East and West: New Challenges for a Rising Regional Power*, Westview Press, Boulder, Colorado, 1996.

¹⁸ Serdar Sayan; Osman Zaim, op.cit.

アルバニア	5.7	0.0	2.2	21.4	0.2	6.8	20.7	0.1	3.8
アルメニア ²²							3.4	0.0	n/a ²³
アゼルバイ ジャン							102.3	0.7	13.0
ブルガリア	10.4	0.1	0.3	76.1	0.5	2.0	72.2	0.5	1.7
グルジア							11.6	0.1	1.8
ギリシア	139.4	1.1	0.8	143.7	1.0	0.9	145.7	1.0	0.7
モルドバ							0.0	0.0	0.0
ルーマニア	83.2	0.6	0.5	105.1	0.8	0.6	173.1	1.2	1.0
ロシア							441.9	3.0	1.3
ウクライナ							35.9	0.2	0.7
ソビエト連邦	531.1	4.1	n/a	610.6	4.5	n/a			

	1993			1994			1995		
	トルコ輸出	割合 1	割合 2	トルコ輸出	割合 1	割合 2	トルコ輸出	割合 1	割合 2
アルバニア	37.8	0.2	6.3	59.3	0.3	11.4	56.9	0.3	9.4
アルメニア									
アゼルバイ ジャン	68.2	0.4	9.5	132.1	0.7	16.7	161.3	0.7	18.3
ブルガリア	86.2	0.6	1.9	133.7	0.7	3.3	183.2	0.8	3.8
グルジア	34.5	0.2	4.8	67.1	0.4	8.4	68.1	0.3	6.8
ギリシア	118.1	0.8	0.7	168.9	0.9	0.9	210.0	1.0	0.9
モルドバ	0.4	0.0	0.1	3.6	0.0	0.5	7.3	0.0	0.9
ルーマニア	151.7	1.0	2.5	175.3	1.0	2.7	302.0	1.4	3.4
ロシア	504.7	3.2	1.4	820.3	4.5	2.2	1238.2	5.6	3.0
ウクライナ	39.5	0.3	1.4	76.3	0.4	2.2	198.5	0.9	5.7
ソビエト連邦									

¹⁹ トルコ輸出：単位 100 万 US ドル

²⁰ 割合 1：トルコ総輸出に占める各国への輸出の割合

²¹ 割合 2：各国の総輸出におけるトルコへの輸出の割合

²² アゼルバイジャンの領土にあるアルメニアの飛び領土であるナゴルノ・カラバフを巡る衝突の解決に失敗したために、1992 年にアルメニアはトルコに通商禁止を言い渡した。

²³ n/a=Not available

表 4 BSEC 諸国からのトルコの輸入

	1990			1991			1992		
	トルコ輸入 ²⁴	割合 1 ²⁵	割合 2 ²⁶	トルコ輸入	割合 1	割合 2	トルコ輸入	割合 1	割合 2
アルバニア	1.5	0.0	0.6	0.6	0.0	0.2	0.9	0.0	1.3
アルメニア							0.1	0.0	n/a
アゼルバイ ジャン							35.1	0.2	2.8
ブルガリア	31.9	0.1	1.0	139.9	0.7	3.7	224.5	1.0	5.6
グルジア							6.3	0.0	2.4
ギリシア	129.0	0.6	0.8	77.0	0.3	0.5	88.2	0.4	1.5
モルドバ							1.7	0.0	0.4
ルーマニア	202.5	0.9	2.2	198.6	0.9	3.7	256.1	1.1	5.8
ロシア							1040.8	4.5	2.5
ウクライナ							90.0	0.4	1.5
ソビエト連邦	1247.4	5.6	n/a	1096.6	5.2	n/a			

	1993			1994			1995		
	トルコ輸入	割合 1	割合 2	トルコ輸入	割合 1	割合 2	トルコ輸入	割合 1	割合 2
アルバニア	1.8	0.0	1.6	1.5	0.0	1.1	1.3	0.0	0.7
アルメニア									
アゼルバイ ジャン	33.9	0.1	4.7	8.9	0.0	1.4	21.8	0.1	4.0
ブルガリア	243.2	0.8	6.6	195.5	0.9	5.0	402.0	1.1	7.9
グルジア	21.9	0.1	6.1	25.6	0.1	5.1	50.2	0.1	16.7
ギリシア	120.5	0.4	2.4	105.1	0.5	2.0	200.7	0.6	3.5
モルドバ	28.9	0.1	6.0	20.5	0.1	3.2	15.6	0.0	2.1
ルーマニア	300.8	1.0	6.1	228.9	1.0	3.7	367.9	1.0	4.9
ロシア	1542.3	5.2	3.4	1045.4	4.6	2.0	2082.4	5.9	3.2

²⁴ トルコ輸入：単位 100 万 US ドル

²⁵ 割合 1：トルコ総輸入に占める各国からの輸入の割合

²⁶ 割合 2：各国の総輸入におけるトルコからの輸入の割合

ウクライナ	472.7	1.6	11.3	535.1	2.4	11.6	856.3	2.4	16.5
ソビエト連邦									

BSEC 加盟国を 3 つのグループに分けてトルコとの貿易傾向を考察する。コーカサス地域（アルメニア、アゼルバイジャン、グルジア）バルカン地域（アルバニア、ブルガリア、ギリシア、モルドバ、ルーマニア）スラブ圏（ロシア、ウクライナ）と分けた。

コーカサス地域では、アルメニアとは通商禁止となっているが、他の 2 国とは良好な貿易関係を続けている。特にアゼルバイジャンは、トルコへの輸出が 95 年には 18% にまで上っている。逆にグルジアはトルコからの輸入が 16% を越えている。バクー（Baku）、トビリシ（Tbilisi）、ジェイハン（Ceyhan）を通るパイプライン計画が 2000 年 11 月 18 日に欧州安全協力組織（Organization for Security and Cooperation in Europe）によって調印された。このことによって、ますます経済的つながりが増えるだろう。

バルカン地域では、貿易額に反して、お互いに総輸出、輸入に占める割合が少ない。アルバニアはトルコに対する輸出の割合は多いが、トルコからの輸入の割合は少ない。モルドバはその反対である。

スラブ圏では、ロシアは初めから貿易額は多いが、トルコの総輸出、輸入に対するロシアの割合が、ロシアの総輸出、輸入に対するトルコの割合が少ないことが特徴である。ウクライナは、BSEC 設立の翌年からトルコへの輸出が急激に増えている。

おわりに

BSEC はまだ始まったばかりである。トルコにとっては EU に正式加盟するためのひとつの手段という見方が強いが、社会主義の中央集権的な計画経済が破綻し、資本主義経済に変わった周辺諸国にとっては市場経済化を進めるための窓口になることが求められている。

さらにアゼルバイジャンなどに埋蔵されている石油や天然ガスの海外輸出向けのパイプラインがトルコを経由して東地中海の積み出し港にまで敷設されることになった。またこの地域の開発のためにロシアとアゼルバイジャンの合弁事業の設立や、チェチェン紛争やナゴルノ・カラバフ紛争などの民族紛争解決協力をするのが合意された。この地域の開発が軌道に乗ると、将来的には世界経済に重大な影響を及ぼすオイルロードとして発展していく可能性を持っている。

BSEC 地域にはいまだに様々な問題が残っている。アゼルバイジャンとアルメニアのナゴルノ・カラバフを巡る紛争、ギリシアとトルコの間にもキプロス問題などの根強い対立がある。資金面でも十分足りているとは言えない。しかし貿易や地域開発を通じて、BSEC 加盟国内の関係は少しずつではあるが改善されてきたように思える。

今はまだ大きな動きはないが、将来旧共産圏の市場経済化が成功すれば、BSEC 地域

は魅力的な市場になるだろう。今後 BSEC の発展についてはイニシアチブを取るトルコの動きにかかっている。BSEC が成功するかはまだ分からないが、今後もその動向に注目していきたい。

(39 文字×337 行)

文献目録

Gareth Winrow, “Turkey’s Evolving Role in the Post-Soviet World”, in Libby Rittenberg(ed.), *The Political Economy of Turkey in the Post-Soviet Era: Going West and Looking East?*, Westport, Connecticut, London, 1998.

Serdar Sayan; Osman Zaim, “The Black Sea Economic Cooperation Project” in Libby Rittenberg(ed.)

N. Bülent Gültekin; Ayşe Mumcu, “Black Sea Economic Cooperation” in Vojtech Mastny; R. Craig Nation (ed.), *Turkey Between East and West: New Challenges for a Rising Regional Power*, Westview Press, Boulder, Colorado, 1996.

長場紘「変転するトルコの社会・政治情勢」『現代の中東』第 24 号、1998 年

松谷浩尚、『現代トルコの政治と外交』けい草書房、1987 年

清水学「ソ連解体と中東世界」『現代の中東』第 12 号、1992 年

財団法人世界経済情報サービス（ワイス）「ARC レポート 1999 トルコ経済・貿易の動向と見通し」

トルコ統計局のホームページ (<http://www.die.gov.tr/>) 内の黒海経済協力共同体加盟国との貿易に関するページ (<http://www.die.gov.tr/BSEC/bsec.html>)

トルコ外務省ホームページ (<http://www.mfa.gov.tr/>)